

# シリーズ

## 阿久比を歩く ⑩



“新畑の庚申さん”

今回からは、町文化財調査報告書『阿久比の石造物』の板山・福住・白沢コースを巡る。  
最初に「新畑の庚申さん」を探す。報告書が示す地図を参考に歩く。途中、舗装された道がなくなり、田畑のあぜ道を進む。「あそこに何かか」。友人が急に声を上げる。小高い丘に、伸びた草で隠れるように屋根のある小さな建物を発見。  
三方をレンガで積んだ小屋の中に、

あ  
ぐ  
い  
ぶ  
ら  
り  
旅

石造物を巡る(板山・福住・白沢コース⑩)

「庚申さん」が安置されている。「圃場を整備するときに、ウンボ(油圧シヨベル)で庚申さんを動かそうとしたら、キヤタピラが切れてしまったんだよ。勝手に動かさないとほし」という庚申さんの抵抗だったかも。しれないね。畑で作業をする男性に「庚申さん」の逸話が聞けた。さい銭や手作りのお守りが供えられ、今も大切にされている様子がうかがえる。  
ふれあいの森を右手に東へ向かう。四つ角の片隅で、小さな地藏尊を見つける。写真で紹介されている形からすると、「クヨバ地藏尊」に間違いはない。「右みやつ道」、「左乙川みち」と地藏の側面に刻まれているようだが、石の風化が激しく確認できない。  
近くの民家を訪ねる。一軒目は留守、二件目で八十四歳のおばあさんに出会えた。「昔はあの辺りは山で、半田市の乙川と宮津へ行く道を教えてくれるお地藏さんだよ」。私たちが何も説明していないのに、おばあさんは「道しるべ」であることを教える。

出会った人に尋ねながら、「地獄谷地藏尊」にたどり着く。位置が移動し、現在は板山地区の地獄谷にはなく、JAあいち知多のカントリーエレベーターと運送会社間の道を少し北へ歩いた場所の一角に、地藏は静かに身を寄せる。  
地藏前の石を拾い、その石でいぼをなでると取れるいわれがあるらしい。「いぼじゃないけど、今日はどの調子が悪いからのどにしとくよ」と、私は石でのどをなでる。友人は「最近、抜け毛が多いから頭にします」と頭をなでる。石を置き、手を合わせて地藏を後にする。



“地獄谷地藏尊”